

受け継がれる技法

黄瀬戸

黄褐色の釉に、胆礬の緑と鉄彩の茶、刻線・印花などの文様が施された端正な器。

瀬戸黒

鉄釉をかけ、焼成中に窯から引き出し急冷して発色させた漆黒の筒形の茶碗。

志野

厚い長石釉による柔らかな乳白色と土の緋色が味わい深い。灰、無地、絵、鼠、紅、練込など多種多様。

織部

黄瀬戸、瀬戸黒、志野の集大成となるやきもの。粘土と釉薬、装飾の組み合わせで多種多様。

天目

甕口の口縁、漏斗状に開く形状、低く小さな高台、高台周辺の土見せが特徴の茶碗。

土岐市が誇る十五人の陶工たちが保持者として認定された陶芸技法は、これまでに十二種類を数えます。この東美濃の地では、今もなお多種多様な技法が生まれ受け継がれています。

青磁

鉄分を僅かに含む胎土と釉薬を用い、還元焼成で青緑色に発色させた端正な形と装飾の器。

高麗青磁

高麗において中国青磁の影響下で誕生した象嵌などの装飾を特色とする澄んだ青緑色の器。

白磁

陶石や磁土を原料とする素地に高火度の透明釉を施した磁器。色絵や染付の素地にも使われる。

青白磁

白磁の一種で、影青ともいう。彫文に溜まった透明釉が美しい水色を呈し効果的な装飾となる。

彩磁

白磁の一種で、素地に彩土や顔料によって装飾を施して透明釉をかける釉下彩の技法を用いた器。

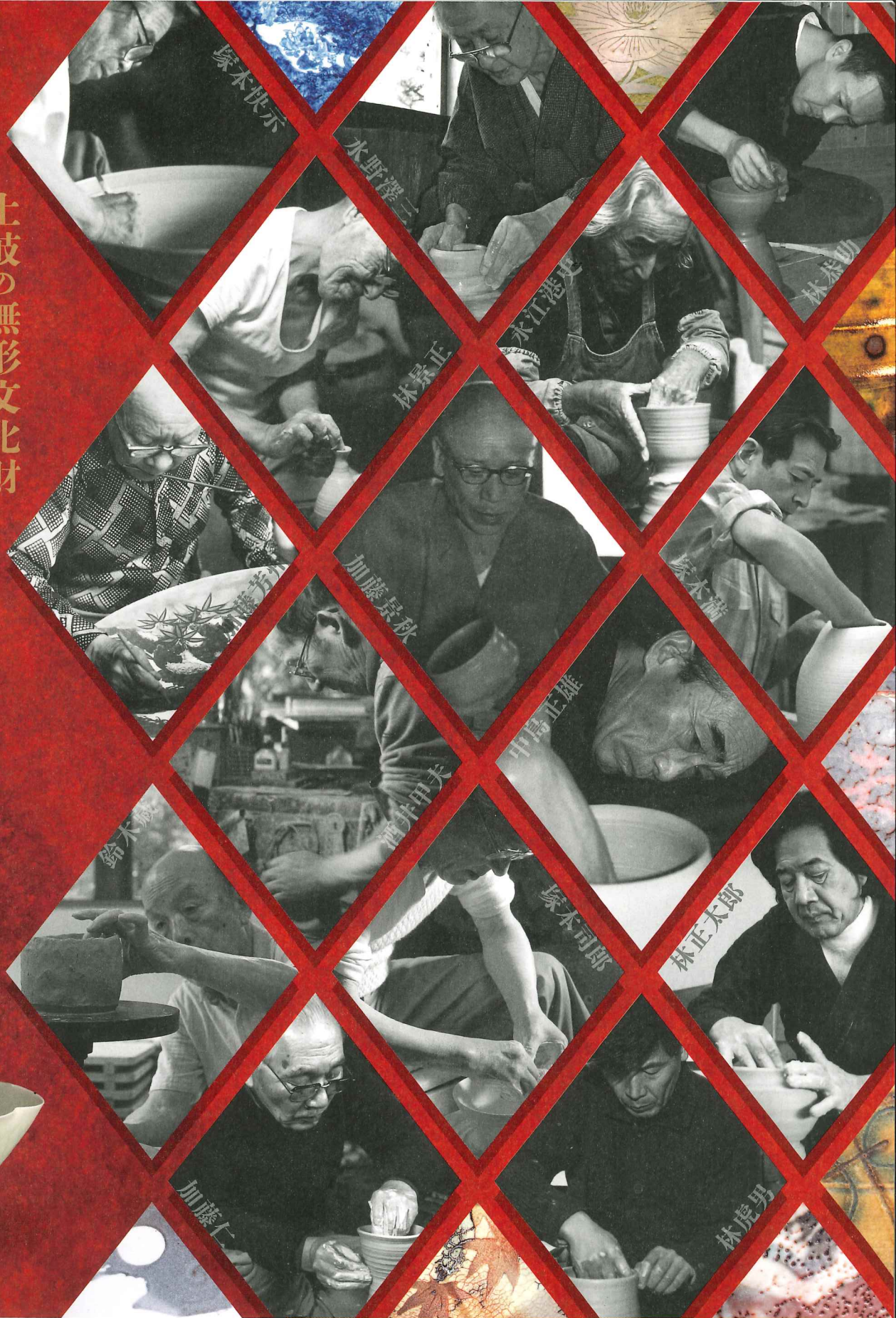
染付

青花ともいう。白色の素地に呉須やコバルト顔料で文様を描き、透明釉をかけて焼成した藍色の装飾を持つ器。

土岐市制
70周年記念事業

十五人の陶工

土岐の無形文化財



[土岐市美濃陶磁歴史館企画展 出張展示会場]
美濃焼伝統産業会館 第1展示室
〒509-5142 岐阜県土岐市泉町久尻1429-8



交通のご案内

鉄道：名古屋駅からJR中央本線「土岐市駅」下車 タクシー約10分
自動車：東海環状自動車道「五斗葺スマートIC」から約2分

TOKIHAKU PROJECT
トキハクプロジェクト

新しい博物館を作っています /

トキハクプロジェクト
メンバー募集中!
ともに活動していただける方
"メンバー登録"はこちら



※イベント最新情報については、
当館ホームページをご確認ください。

関連イベント

- 学芸員による展示解説
令和7年3月15日(土) / 4月29日(火・祝) 14:00～
- 第36回 春の美濃焼伝統工芸品まつり
令和7年5月3日(土・祝)～5日(月・祝) 9:00～16:30 (最終日は16:00まで)

土岐市美濃陶磁歴史館

TOKI CITY HISTORICAL MUSEUM OF MINO CERAMICS

〒509-5122 岐阜県土岐市土岐津町土岐口2121-1 土岐市文化プラザ3階
TEL.0572-55-1245 FAX.0572-55-1246



土岐市文化振興事業団ホームページ
<http://www.toki-bunka.or.jp/history>

土岐市美濃陶磁歴史館は、新博物館建設に伴い休館中です。土岐市美濃焼伝統産業会館で館外展示を行います。

令和7年

2月1日(土) ▶ 5月11日(日)

会場 美濃焼伝統産業会館 第1展示室
〒509-5142 岐阜県土岐市泉町久尻1429-8 [出張展示]

開館時間 午前9時～午後4時30分(入館は午後4時まで)

休館日 月曜日(祝日の場合は開館、火・水曜日は休館)
祝日の翌日(土曜日が祝日の場合、日曜日は開館、火曜日は休館)

入館料 無料 企画 公益財団法人土岐市文化振興事業団
土岐市美濃陶磁歴史館 Toki City Historical Museum of Mino Ceramics

土岐市は、美濃焼はじまりの地であり、1400年続くやきもの町です。安土桃山時代から江戸時代初めにかけて、日本の陶磁史に燦然と輝く美濃陶山陶「黄瀬戸・瀬戸黒・志野・織部」を生み出し、現代に至るまで多種多様なやきものを生産し続けてきました。長い歴史の中で育まれた様々な伝統技法は今もなお継承されています。それら伝統技法を受け継ぎ、再現するだけでなく、発展させて独自の作風にまで昇華させた優れた陶工たちは、国・県・市の無形文化財に指定されてその技術と功績を顕彰されてきました。本展では、市制70周年を記念して土岐市が誇る15人の無形文化財保持者の作品を展示し、これからも受け継がれていくであろう陶芸の伝統と技術を紹介いたします。

土岐市美濃陶磁歴史館

TOKI CITY HISTORICAL MUSEUM OF MINO CERAMICS



無形文化財とは

無形文化財とは、個人や団体が伝承し体得している無形の「技」そのものを指します。その人や工芸技術によって作られた作品のことではありません。「技」がまず無形文化財として指定され、それら「技」の保存を具現化するためにその「技」を体得している人や団体が「保持者」として認定されます。この無形文化財指定制度は、日本の歴史の中で特に価値の高い技術の保存と活用を図り、後世に伝え残していくことを目的としています。

～重要無形文化財保持者(人間国宝)～

塚本快示

Kaiji Tsukamoto

[1912～1990]

白磁・青白磁

日本的な感性が生み出す文様と造形の独自性、本歌を凌ぐ色調の美しさ



青白磁輪花碗

鈴木藏

Osamu Suzuki

[1934～]

志野

伝統に立脚した試行錯誤と革新、先鋭的で冒険心に溢れた力強さ



志埜茶碗

写真提供：国立工芸館

～岐阜県重要無形文化財保持者～

林景正

Kagemasa Hayashi

[1891～1988]

黄瀬戸

忠実な再現の上に重ねられた創意工夫が醸し出す瀟洒な味わい



黄瀬戸胴紐茶碗

加藤景秋

Kageaki Kato

[1899～1972]

志野・織部

自在な釉表現と軽妙洒脱な筆致がもたらす素朴で柔らかな優雅さ



志野茶碗「なみの花」

林正太郎

Shotaro Hayashi

[1947～]

志野

力強さの中にある柔らかく変化に富んだ独自の彩色と風合いの美しさ



万葉志野紅葉紋花器

～土岐市指定無形文化財保持者～

中島正雄

Masao Nakashima

[1921～2014]

高麗青磁刻
花牡丹文梅瓶



青磁・高麗青磁
流麗な彫文、緻密な象嵌、優美な装飾
技法の極致

加藤芳州

Hosyu Kato

[1908～2000]



染付古代山水文特大皿

染付

繊細かつ巧みな筆致が生み出す南画的
山水、花鳥風月の世界

加藤仁

Shinobu Kato

[1926～2004]



木の葉天目茶碗

天目

油滴に木の葉のみならず、宋代天目の
本歌に迫る技術と感性

塚本司郎

Shiro Tsukamoto

[1927～2012]



彩磁朝顔文陶管

白磁・彩磁

揺るぎない器の造形と季節を彩る草花
の瑞々しい美しさ

林虎男

Torao Hayashi

[1926～1999]



黄瀬戸茶碗

黄瀬戸

本歌に劣らぬ流麗な線彫、抜け胆礬に
黄金色の優美な膚合い

永江港史

Koshi Nagae

[1926～2007]



鳴海織部田楽手付鉢

織部

伝統的美しさに加えられた鮮やかで柔ら
かく暖かい風韻

水野澤三

Takuzo Mizuno

[1927～2015]



瀬戸黒茶碗

瀬戸黒

端正な器形と見事な発色の釉調が醸し
出す優美な趣

酒井甲夫

Kobu Sakai

[1936～]



志野茶碗

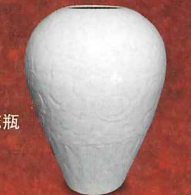
志野

素朴で力強く、かつ柔らかく、巧妙で変化
に富む幽玄の風情

塚本満

Mitsuru Tsukamoto

[1951～]



白瓷牡丹唐草文花瓶

白磁・青白磁

清らかな彫文と器の造形が織りなす気
高くも素直な美しさ

林恭助

Kyosuke Hayashi

[1962～]



黄瀬戸壺

黄瀬戸

器形と釉の心地よい調和、大らかで柔ら
かく爽やかな美しさ